

そばの食べ処を核とした地域活性化の取組み

国道427号線の旧道を丹波から和田山方面に向かうと遠坂峠の手前に「そば処 今出せせらぎ園」がある。名前のとおり、溪流のせせらぎや、そよ風の音・小鳥のさえずりが山間に響き心を癒してくれる。

「今出せせらぎ園」は地域の人々の熱い思いが叶い、山村振興対策事業を活用して2003年6月にオープンし地域の活力になっている。

1 あゆみ

1994年、遠阪地区開発委員会を設立。地元・町・普及センターの知恵を合わせ、今後の将来像を描いた。そこで、そば処を開設し、来園者に地域の自然を満喫してほしいという意見がでた。その後、開設に向けて活動を開始したが、耕作面積が少ない遠坂地区では、そば栽培面積の拡大は困難で地区外に協力を求める必要があった。そば打ち方法、料理の内容、接客方法、採算の可能性、組織形態等の問題を地元・普及センターが膝を交えながら解決に向けて取り組んだ。

2000年遠阪・今出・徳畑・和田の4集落の93戸の出資金を集め「農事組合法人 今出せせらぎ園」を設立、「そば処 今出せせらぎ園」オープンに向けた活動が始まった。

2 交流と地域の取組み

2003年、普及センターでは地元住民が誇れる地域資源の掘り起こしを行った。地域には牡丹・ウコン・ザクラ・シャガ・ナナカマド・ナツツバキ・ササユリ・セツブンソウと四季折々の花が咲き訪れる人を楽しませている。これらの花を交流の目玉に整備をすすめた。ただ問題は、地元高齢者だけでは人手不足のため、地区外にある「青垣いきものふれあいの里」のメンバーの協力も得て、交流事業を盛り上げている。

「蛍の鑑賞会」を始め、「川あそび」・「新そば祭」などイベントを開催しているが、2～3カ月前からカブトムシやメダカ「プレゼント券」などを配

布し、イベントへの感心を高めている。

地元の熊野神社は病気平癒の神様として多くの参拝者があり、11月3日は無形文化財「裸まつり」が奉納される。腰にサラシを巻いた男性がサカキを奪い合う勇壮な神事であるが、氏子だけにこだわらず、訪れた人々も参加でき、地域の大きさが窺える。この神事も交流の柱とした。

昔から自然薯を栽培していたのを拡大させ、自然薯をつなぎに使った十割そばを特徴にすることにした。そして定食に付くごはんはそばの実入りである。

こうした努力が実って、年間の集客数は8,000人を超えた。

3 これからの課題

将来は、当園の山を散策ができ、四季折々の花を植栽し、小動物とふれあう場を作り出し、そば打ちや餅つき体験も行いたいと希望に燃えている。また、当園近くの道沿いにそば栽培を行い農業振興と景観整備をすすめ、地域ぐるみでPRを行いたい。

丹波市青垣町遠阪1625

Tel & fax : 0795-88-0558

営業時間 : 11:00~16:00

定休日 : 木曜日

岡田八千代（柏原農業改良普及センター）



せせらぎ定食

ひょうごの農林水産技術 No.143

平成18年1月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）